

きんもくせい

令和8年 学校教育だより

May **5** 第369号

(年4回発行)

編集・きんもくせい編集委員会

発行・埼玉県富士見市教育委員会

電話・049-251-2711(内線623)

編集目標 学びあい 人がつながり 一人ひとりが輝く 富士見の教育

みずほの丘の躍動



写真提供／西中学校

私のペット

元富士見特別支援学校高等部 三年

小林 美流

大きな黒い瞳で

私をじっと見つめてくる

手のひらにおさまるほどの

小さな体

おやつを両手でぎゅっと

抱える姿が愛らしい

大好物は蒸したさつまいも

特等席は私の肩

夜の闇をすいすいと泳ぐ

小さな小さな空飛ぶ妖精

その名はクッキー

クッキーは

私の大切な

私の家族

はじめに

富士見市では、児童生徒の自尊感情を高めるために包括的性（セクシュアリティ）教育を実践しています。

令和七年度には、「いのち」「性」「人権」等に関わる各教科・領域、行事等との関連付けを図り、義務教育九年間をとおして学びを積み上げる「いのちの授業＋（プラス）」を市内全校でスタートしました。この取組をもとに、本校では、人権教育を中心に、教職員も研修を積み重ねながら子どもたちへの指導を充実させています。

たと実感し、未来に力強く生きるために 人を大切にしよう～

指導者 勝瀬小学校 教諭 細川 翔平

①学校の多様性と近年の課題

学校現場においては、不登校（傾向にある）児童生徒、家で日本語を話さない子、ジェンダーに関わること等、子どもたちを取りまく様々な実態があることからも、多様性の時代と言われるのがよくわかります。

また、不登校児童生徒数の増加や、いじめ、若年層の自傷行為、自殺者の増加、性犯罪にかかわる被害者、加害者の低年齢化などが、現在、全国的に問題となっています。

だからこそ「いのちの授業＋（プラス）」として人権教育を実施し、「いのち」「性」「人権」に関わる学びをおして、子どもたち一人一人の自尊感情を醸成することに重点をおいて取り組んでいます。

②具体的な取組

- ①毎月の取組について
・あのねカード

・授業実践例六年

（総合的な学習の時間）
（動画教材「ランドセル選びドキュメンタリー篇（セイバン公式）」の動画視聴をとおして、無意識のうちに男女のイメージを決めて他者に押し付けていたことに気が付きました。ほかの生活の様々な偏見について、一人一人が疑問に思ったことについて調べ、発表し合うことで考えを深めることができました。

魅力ある授業

＝勝瀬小学校の人権教育＝

児童一人ひとりが生まれてよかった ～自分とまわりの

特別支援教育

「自立活動の存在」

水谷小学校 教諭 田中 瑠璃乃

自立活動は「こういう力を身に付ける時間である」と一言で表せる活動ではありません。

子どもの状態や背景によつてねらいは変わり、実践すればするほど広がっていく奥の深い活動だと感じています。できることを増やすことは、大切なことです。ただ、自立活動を考える中で強く感じる

のは「一人でできるようにすること」以上に「一人では難

しい時に助けを求める選択ができること」の重要性です。

六年生までの子どもたちがそれぞれの課題に向き合いながら過ごしています。年齢も課題も異なる中で、自然と子ども同士が助け合う場面に出会うことがあります。友だちが困っていることに気付いた子が声をかけた

り、助けを求められた子が自分でする形で応えたりする姿が印象

的です。

自立活動の成果は、すぐに目に見える形で現れるとは限りません。しかし、子どもたちが自分の困り感を言葉や態度で示したとき、その背景には今まで積み重ねてきた自立活動の時間があります。

助けを求める力は、通常学級で学ぶ子どもたちにとって、今までの学校生活や社会の中で欠かせない力です。自立活動は特別な指導ではなく、学校教育全体を静かに支えている存在なのかもしれません。

おわりに

人権教育の立ち位置を、一本の木に例えてみます。学校とい



う木があるとする、各教科・分野での指導をとおして、知識やスキルという花を次々と付けていきます。

しかしながら、本校で言う「自分と相手大切に」という人権感覚とそのスキルは、花ではなく、その木の「根」に当たる部分ではないかと考えています。目立ちはせずとも、すべてをつなぎ合わせたり、土台になったりするような立場。いずれその木は学校ではなく、一人一人の「自分」という木になっていくことから、その根が強ければ強いほど、自らの力で大きくたくましい幹を育て、きれいな花を咲かせることにつながるのではないかと思います。

たとえ変化の激しい時代という「風」（近年で言うとコロナやSNS、AIの普及と言ったところでしょうか）が吹いても、この先、何が起きてもお折れることない強い「木」（＝自分）を育てていく「根」が必要ですからこそ、本校の目標である「未来に力強く生きるため」の指導が、より充実できるように人権教育が今後も励んでいきます。

指導・講師

元富士見市立勝瀬小学校長

藤井 文則



児童一人ひとりが生まれてよかったと実感し、
未来に力強く生きるために
～自分とまわりの人を大切にしよう～

多様性の時代と言われる、様々な人権に関する課題が顕在化してきました。一人一人が、当事者意識をもち、「自分とまわりの人を大切にしよう」というキーワードのもとに、細川教諭が先駆者となつて、全校の教職員が同じベクトルで、包括的セクシュアリティ教育のネットワーク化（縦の系統性、教科の横断性、様々な目標や行事等との関連性をもたせることによる価値観の向上）の実践に取り組まれました。委嘱期間だけの取組で終わらず、勝小のスタンダードとなる素晴らしい取組になることが期待されます。

関沢小学校3年 新井 結斐

私たちはコンピュータ博士!



総合的な学習の時間で「コンピュータ博士になろう」という課題をがんばっています。2学期に楽しかったのは、たくさんさんのロボットが来て「パブリカ」の曲に合わせてダンスを見せてくれたり、いっしょにラジオ体操をしたりしたことです。ちがう Wi-Fi をロボットが拾って動かなくなるという話もおもしろかったです。

3学期は、「ビスケット」というアプリを使ってクレーンゲームを作りました。プログラミングでゲームをつくれるということを家族や友だちに知ってほしいです。そしてゲームで遊んでもらった後に、自分でもつくって遊んでほしいです。



【3学期】福祉・感謝

人権週間で作成した「ふわふわ言葉の花束」



一人一人が各行事のめあてを用紙にまとめます。その後、友だち同士で「うを頑張っていたね」「〇〇していかってよかったよ」「〇〇がすごいね」など、付箋に書いて交換します。児童同士のよりよい人間関係の形成に大きな役目を果たしています。

(3)人権週間

各学期にテーマを設けて様々な取組をします。

- 【1学期】仲間、友だち
- 【2学期】性の多様性、国の違い

学級	テーマ
1年	自分らしく生きていくために
2年	自分らしく生きていくために
3年	自分らしく生きていくために
4年	自分らしく生きていくために
5年	自分らしく生きていくために
6年	自分らしく生きていくために

・ジェンダーに関わる授業

(4)発達段階を踏まえた授業計画
いのちの安全教育に関わる内容

地域に育てられて

本郷中学校 保護者 雨宮 紀子

小学校の入学式から早八年。地域の皆さまに見守られながら成長した我が子。いろいろな行事の度に撮った写真を眺めていると、あの頃はまだ小さかったな、今はやっぱり大きくなったな、とつくづく感じます。

富士見市は私の地元ではないため、地域の事情はよくわかりませんでした。しっかり子育てできるだろうかと不安に感じて

いましたが、幸い、近所の先輩ママさんたちにいろいろな助言を頂くことができ、どんなに安心したことか。〇〇するといひ、□□もあるよ、大丈夫だよ。周りの皆さまのおかげで、子どもだけでなく親としての自分が少しずつ成長できたのではないかと思います。

学校はどんな様子なんだろうと思ひ、積極的に学校行事にも参加しました。我が子の様子を見ることはもちろんですが、普

段は見るのができない「学校」といふ場所の雰囲気を感じたかったからです。その結果、学校は、家庭ですることができない経験ができる場所なんだと改めて感じました。先生や友人、先輩との関わり合い、クラブ活動、等々、小学生・中学生の時にしかできない貴重な経験ができたのではないかと感謝しています。

大人になった時に、小学生・中学生の頃「こんな経験したよ」と言える思い出がたくさんできることを祈りつつ、親として子どもたちの成長をこれからも見守っていきたいと思ひます。



赤ちゃんふれあい体験

西中学校

本校では、「包括的性教育」の一環として、養護教諭を中心赤ちゃんのお世話、妊婦体験を実施しています。赤ちゃんのお世話大変さ、妊婦さんの動きにくさを生徒たち一人一人が体感します。その後、地域の赤ちゃん・保護者に協力していただき、「赤ちゃんふれあい体験」を行います。昨年度は地域から十七名の赤ちゃんと保護者の方に来校していただき、一年生が実

際に赤ちゃんふれあいしました。生徒は赤ちゃんを抱っこしてその重みを肌で感じたり、目の前で泣いている赤ちゃんをあやすたりしていました。ふれあいをとおして、生徒が「僕たちにできることはありますか。」「自分たちも、こんな時期があったのか。」「と考える姿が印象的でした。本実践は今年度も実施する予定です。赤ちゃんとのふれ



あいをおして、生徒たちがどんなことを感じるのか、とても楽しみです。

はぐくむ

～学校・家庭・地域から～

夢ときぼろをはぐくむ

諏訪小学校 保護者 大石 千春

「夢」とは、個人が将来的に達成したい目標やなりたたい姿を描くこと。そして日々の行動や決断に目的を与え、モチベーションを高め、個人の成長を促進するものです。つまり、夢へ向かって行く過程がとても大切ということ。日々の生活の中で、子どもの姿を見ることがポイントだと感じます。最近よく髪型を意識するようになった

な」と思っていたら、ある日突然「美容師さんになりたい」と言っていたり、「小さな子とよく遊んだり、かわいいと言うようになったな」と思っていたら、「保育士になりたい」と言っていたり。生活の中にヒントは沢山あります。その中で、子どもが夢に向かって頑張っている姿を見逃さず、「こんなことを頑張っているね。すごいね。」

勝ち負けはひとつじゃない

NPO法人はぐくむセバタクローククラブ 代表 矢野 順也

私はセバタクロークというスポーツを長年やっていて、日本代表選手としても頑張りましたが、銅メダル止まり。その先の景色が見たくて代表監督としても頑張りましたが、夢は叶わず、私がセバタクロークで勝つことはもうなく、嬉しい想いをすることももうないはずでしたが、先日、不思議な経験をしました。

セバタクロークはタイミラージュア発祥のスポーツで、特にタイは絶対王者と言われ、この三十年間、金メダルしか獲ったことがない強さです。

そんなタイに私はたくさん負けましたが、タイの選手たちはセバタクロークを始めたばかりの国々で完膚なきまでに叩きのめすということはずいぶん相手には慣れないように0点で試合を終わらせず、また戦いにおいてというメ



と応援し、励まし続けてあげたいです。また、子どもが安心して過ごせることで夢や希望は生まれてくると思っています。

希望に向かって成長していける取組を大切にしていきたいと考えます。皆で子ども一人一人の声や気持ちに耳を傾けましょ



ウッドデッキのさらなる有効活用をめざして

つるせ台小学校

つるせ台小には、校舎の中に数ヶ所の「ウッドデッキ」があり、多くのことに使われてきました。この場所は音楽室前や理科室の外

活動できる、②周りを校舎で囲まれているため外からは見えにくいようになっている③日かげの部分が多いため直射日光を避けることができる、などが挙げられます。本校は令和七年度開校二十周年を迎え、二十周年記念行事も行いました。開校以来、本校ではこの便利で安全なスペースを使って、いろいろな活動を行ってきました。例えば理科の実験、



教育課題特集

夢ときぼろをはぐくむ



心！競書会

1月12、13日に体育館で、3年生から6年生の児童が書き初め競書会を行いました。大筆に新年の新たな思いを込めて書きました。

諏訪小



6年生～総合と家庭科の合科授業

授業でお世話になった福祉事業所の皆さんに食べてほしい献立を考え、調理実習をしました。学校菜園で育てたことのある野菜を使っています。

関沢小



歯みがきキャンペーン表彰

給食委員の取組で、歯をみがいた人数をクラスごとに集計しました。上位のクラスには歯の形のトロフィーと表彰状が贈られました。

東中



水谷東小

手をつなごう世界の仲間たち

6年生が外国の方を招待し、歓迎パーティーを開きました。日本の遊びやスポーツと一緒に楽しみました。



みずほ台小

校地内に併設されているデイサービスとの交流

昨年11月に、2年生が音楽会で発表した歌と合奏を地域の方々に披露しました。



ハッピーフラワーキャンペーン

生徒会が全校生徒に呼びかけ、花壇に花を植えました。学年を超えて、協力して作り上げた花壇は、西中学校の昇降口を明るく華やかにしています。

西中



針ヶ谷小

白熱！針小かるた大会

本校では、毎年1月に針ヶ谷小学校のオリジナルかるたを使った『針小かるた大会』が開催されます。針小の歴史を学びながらも勝負には全員、本気になります！

新たな夢や希望を抱いた子どもたちが入学・進級し、子どもたちの笑顔があふれる令和八年度がスタートしました。

ある時、入学したばかりの一年生に、少し大人になった上級生が優しく声をかけ、丁寧に教えている姿が見られました。下級生のお手本となるように進んで取り組もうとする姿に成長を感じ、とてもたくましく、そして微笑ましく映りました。

今年度も子どもたちが安心・安全な環境の下で教育活動に励み、子どもたちの力を十分に引き出し、伸ばすことができるように、教職員が一丸となって支援を行ってまいります。

この学校TODAYでは、富士見市内の小・中・特別支援学校の特色ある活動の様子を紹介いたします。生き生きと活躍する子どもたちの姿をご覧ください。

勝瀬小



勝瀬っ子祭り！！

「世界一ド派手に楽しめ レッツゴー勝瀬っ子フェスティバル」のスローガンで、笑顔溢れる一日となりました。



勝瀬中

僕にも妹がいたらなあ

赤ちゃんふれあい体験での1コマ。「ソーソー」「こっちもあるよ」「できたねー」赤ちゃんの一挙一動にやさしい声が飛び交いました。

II 市教育相談室よりII
教育相談室のご案内

Q あすなろ「つどんな教室？」

A あすなろ「では、学校に行きづらいと感じている児童生徒に対し、社会的な自立に向けた支援をしています。

本人の意思を尊重しながら、個々の状態に応じて通い方や過ごし方を保護者の方と一緒に考えていきます。

（開室時間）
午前九時から午後二時三十分

（所在地）
ふじみ野東四丁目四番地一

（ふじみ野小学校東側校舎）
（出張あすなろ）

公民館などを活用した「出張あすなろ」も開設いたします。

（問合せ）富士見市教育相談室
TEL 049125715310

Q 「発達障がい（神経発達症）」って何？

A 発達障がい（神経発達症）は、脳機能の発達に関係し、対人関係や社会性、行動、情緒、学習面に困難が見られます。自分勝手、変わった人などの誤解から、注意をされることが多くなり、自己評価や自己肯定感が低下してしまうことがあります。発達障がいには、次のようなタイプがあります。

・注意欠如多動性障害（ADHD）

集中できない、じっとしてられない、

考えるよりも先に動く、ルールが守れないなどが特徴で、早合点や、不注意による失敗を多く経験します。

・自閉スペクトラム症（ASD）

言葉の遅れ、コミュニケーションの難しさ、パターン化した行動、こだわり、暗黙の了解や例えばなしを理解しにくいなどの特徴が見られます。臨機応変に判断し、行動することが多い学校生活に不安を感じます。

・限局性学習症（LD）

全般的な知的発達に遅れはないものの、聞く、話す、読む、書く、計算する、推論するといった学習に必要な基礎的な能力のうち、一つないし複数の能力について困難が見られます。周囲から、やる気の問題や努力不足と見られてしまうこともあります。

・発達性協調運動症

はさみを使う、ボタンを留める、文字を書く、姿勢を保持するなどの日常的な動きや、縄跳び、跳び箱、鉄棒、球技などの運動に、不器用さや困難が見られます。作業に時間がかかる、ミスが重なるなどにより、心身の負担が蓄積し、自信ややる気を失ってしまうこともあります。

お子さんに、思いあたることがありましたら、その子の個性や特性として理解し、早期に適切な支援を行うことが大切です。

一緒に考えてまいりますので、教育相談室にもご相談ください。



教育委員会だより

○令和8年度教育行政方針

＜主な取組み＞

全文は、市HP、各図書館等でご覧になれます。

- ◆ 一人一台端末を用いた児童生徒の学びを支えるGIGAスクールサポーターを配置
- ◆ 実用英語技能検定の補助対象学年を小学校4年生からに拡大し、上位の級の補助額を増額
- ◆ すべての学校図書館に蔵書管理システムを導入
- ◆ 心のサポートや学習支援を行う校内教育支援員を配置
- ◆ 心肺蘇生法について体験的に学ぶ授業を全校で実施
- ◆ 市内全校にコミュニティ・スクール協議会を設置



○運動会(体育祭)・音楽会(合唱祭)等の日程

学校名	運動会・体育祭	予備日	音楽会 合唱祭
鶴瀬小学校	5月30日	5月31, 6月2日	10月31日
水谷小学校	10月31日	11月5, 6日	9月19日
南畑小学校	5月30日	5月31, 6月2日	10月31日
関沢小学校	5月23日	5月27, 29日	11月7日
勝瀬小学校	10月31日	11月1, 4日	6月27日
水谷東小学校	10月31日	11月2, 4日	6月27日
諏訪小学校	10月31日	11月5, 6日	9月26日
みずほ台小学校	5月30日	5月31, 6月2日	11月7日
針ヶ谷小学校	5月23日	5月26日	11月7日
ふじみ野小学校	10月17日	10月20日	6月27日
つるせ台小学校	10月17日	10月21, 22, 23日	12月5日
富士見台中学校	5月23日	5月26, 28日	10月20日
本郷中学校	5月23日	5月26日	10月15日
東中学校	5月23日	5月25, 26日	10月29日
西中学校	5月16日	5月19, 21日	10月20日
勝瀬中学校	5月16日	5月19, 21日	11月2日
水谷中学校	5月16日	5月18日	10月30日
富士見特別支援学校	小：5月29日 中・高：5月22日	小：6月5日 中・高：5月28日	【ふじみっこ祭り】 小：11月27日 中：11月20日 高：12月4日

○令和8年度の学校教育だより「きんもくせい」編集委員

富士見市の教育理念「学びあい 人がつながり 一人ひとりが輝く 富士見の教育」を基本とし、その実現に向けて編集に携わっていただきます。

《編集委員長》	関口 循子	関沢小学校校長
《編集副委員長》	中村 恵美	西中学校教頭
《編集委員》	井村 まき	水谷小学校教諭
	小林 彩乃	勝瀬小学校主幹教諭
	村山 由香利	針ヶ谷小学校主幹教諭
	重田 廉	東中学校教諭
	倉友 暁	富士見特別支援学校教諭



支え合い、讃え合う仲間

水谷小学校 教諭 加茂 美優



ながら、日々の学級づくりに取り組ましました。

この一年間、学級会を重ねることで、子どもたちは自分の思いを伝えるだけでなく、友だち

の思いにも耳を傾け、互いを大切にして過ごそうとする姿が増えました。

また、行事に向けては自分たちの課題を見つけ、解決に向ける

て努力することができるようになりました。長縄跳びやリレー、

ドッジボール大会では放課後の練習を自分たちで呼びかけたり、作戦会議を何度も重ねたりしな

がら、目標に向かって団結する姿が見られました。得意不得意

に関わらず声を掛け合い、支え

合い、切磋琢磨しながら取り組む姿、そして互いの頑張りを称

え合う姿に感動するとともに、成長を感じました。

学級通信のタイトルは「百花繚乱」。一人一人が自分らしい花を咲かせ、学級全体がより豊

かになることを願ってきました。そして、子どもたちは中学生と

いう新しい舞台へ飛び立ちました。これからも、仲間と共に歩み、笑顔あふれる毎日になるよう、応援していきたいと思っています。

編集日記

「学級あたり四・五人」。この数字は何をあらわしているのだろう。小・中学校それぞれの学級にみられる不登校傾向児童生徒の割合とのこと。

その他、興味深い数字があるので小学校を例に紹介すると、「〇・八人…特殊な才能のある子供」、「三・六人…学習面又は行動面で著しい困難を示す子供」、「一・〇人…日本語を家であり話さない子供」。文部科学省が審議会で令和七年九月に公表した「児童生徒の多様性を包摂する必要性」を説く図の中から抜粋したものだが、教室には実に多様な子どもが存在していることを強く認識する。

「令和四年度 義務教育に関する意識に係る調査」では、授業の内容が自分に合っていると感じている子どもは四四・五%とあり、従来の二斉授業型のよさと新しい試みを融合させ、一人一人の子どもの学習意欲の喚起や可能性の開花をねらいたい。

新年度を迎え、ヶ月。子どもたちの楽しそうな声が響く学校現場は、それぞれの特色で児童生徒の成長を丁寧に後押ししていく。今年度も学校・家庭・地域で手を

取り合い子どもを育てたい。
(関口循子)